

S 状結腸穿孔性腹膜炎における Hinchey 分類 1-2 症例に対する当院での成績

■ 研究の対象となる方

2013 年 2 月～2020 年 12 月に当院で S 状結腸穿孔に対して手術を受けられた方で Hinchey 分類 I-II に相当する方。

■ 目的・方法

大腸穿孔は、汎発性腹膜炎から敗血症、DIC などの臓器障害により重篤化し、一般的には予後不良とされますが、穿孔部位や腹腔内の汚染状況によって術式選択は異なります。特に左側結腸での穿孔例は人工肛門造設が選択され、全身状態改善後に人工肛門閉鎖を検討されることがあります。しかし、人工肛門造設による QOL 低下も考えられ、汚染が軽微な場合には一期的な吻合を考慮することで患者さんの QOL の向上に繋がる可能性もあります。今回我々は、大腸穿孔症例において、一期的吻合を行った症例と、人工肛門造設を行った症例の背景と術後経過を比較し、術式選択における参考になるものがないかを検討しました。

■ 実施期間

医療倫理委員会承認日～2022 年 3 月

■ 研究に使用する情報

年齢、性別、併存疾患、既往歴、ASA-PS、CCI、採血データ、CT 所見、手術記録 等診療の中で得られた情報を使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

■ お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先	済生会熊本病院 外科 光浦 智証（研究責任者） 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)
-----	--

以上